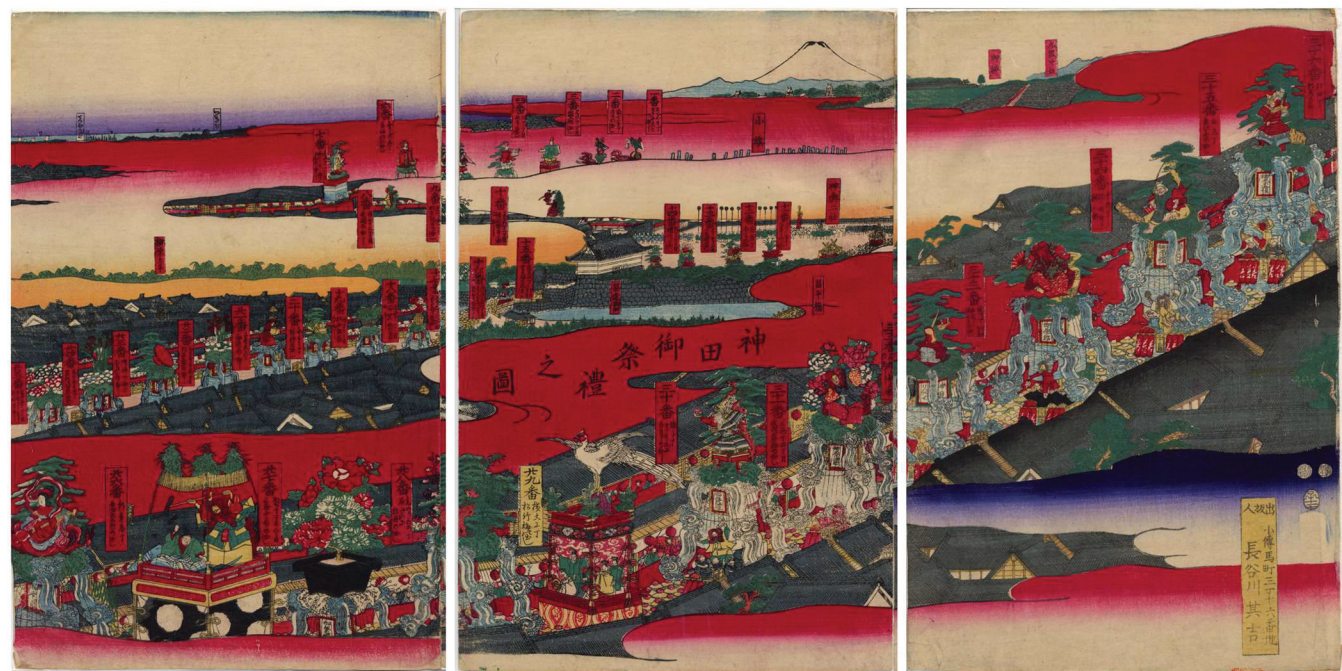


---江戸の人々が見ていた神田明神---



神田祭 錦絵



新板 浮絵江戸神田明神之図



江戸名所神田明神社

江戸の総鎮守 神田明神

470 年間、今に続く「神幸祭」歴史と伝統を誇る祭礼



神幸祭 最終的には数千人規模の大行列

1558 年 永禄年間に疫病が流行し、その終息を祈願。その成就の御礼として奉納されたことに始まる。三柱の御神霊を遷した「一の宮鳳輦」「二の宮神輿」「三の宮鳳輦」をはじめ諫鼓山車や獅子頭山車などからなる行列が東京都心の氏子 108 町会を巡り、神々の力によって各町会を祓い清める。長い道のりの途中で「付け祭」の行列も加わり、最終的には数千人規模の大行列へと膨らむ。

神田祭の 4 つの特色

- ① 江戸総鎮守である神田明神の御祭礼である
- ② 神輿などが江戸城に入ることができ徳川将軍が上覧した
- ③ 山王権現（日枝神社）と隔年で斎行
- ④ 天下祭り・御用祭と呼ばれた権威あるお祭りである

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス

社伝：神田明神は天平 2 年(730 年)出雲氏族の真神田臣により
武蔵国豊島郡(現在の千代田区 将門塚周辺)に創建された
日本三大祭りのひとつ「神田祭」が 4 年ぶりに開催



一の宮鳳輦 大己貴命

だいこく様をお乗せする鳳輦

だいこく様は縁結び、夫婦和合、国土開発・経営、医療・医薬の神様。
大国主命(おおくにぬしのみこと)ともいいます。鳳輦は昭和 27 年、
戦後初の神田祭神幸祭にあたり新調されました。



二の宮神輿 少彦名命

えびす様をお乗せする神輿

えびす様は商売繁昌、医薬健康、開運招福の神様です。
神輿は昭和 48 年に日本橋三越本店より創業 300 年を記念して
奉納されました。



三の宮鳳輦 平将門命

まさかど様をお乗せする鳳輦

昭和 59 年、平将門命が御祭神として正式に復座されたのを機
に、昭和 62 年、氏子の浄財により江戸時代の将門命をお乗せ
した入母屋造りの神輿を元に調製されました。